

平成 28 年

7 月 31 日 (日)

13:30~15:30 (開場 13:00)

流山市生涯学習センター (流山エルズ)  
C401 大会議室 会費 / 500 円 予約不要

文部科学省により 2012 年に全国の公立小中学校で約 5 万人を対象にした調査結果で、“発達障害の可能性のある”とされた児童生徒の割合は 6.5%です。一クラスに 2 人程度は発達障害の傾向があるということになります。

家族は、全ての障害において受容など子の成長によって様々な壁に出会います。その壁は地域から孤立する一因となります。障害がある子もない子も、「どの子も見守られる街流山」になるために地域が担う役割とは何でしょうか。基調講演・パネルディスカッションを通し、そのヒントを探ります。

— 親・地域・施設・行政の役割 —

# 地域で支える 子どもの発達障害

地域の  
ネットワークが  
切れ目のない  
支援を生む

第 1 部

## 海津 敦子さん 基調講演

「発達に遅れのある子の親になる」著書  
現文京区区議会議員



第 2 部

## 流山の現状と課題を知る パネルディスカッション

当事者の親 × わらしこ保育園 古谷園長 × NPO 法人 CASE Japan 吉田理事長

主催：流山子育てネット

URL: <http://nagareyama-kosodate.org>

Eメール: [info@nagareyama-kosodate.org](mailto:info@nagareyama-kosodate.org)

地域の子育て支援ネットワークで、子育てをもっと身近に！

私たちは「どの子も見守られる街、流山」を目的に流山市内の子育て支援関係者や関係団体で構成され地域の子育て課題に取り組んでいる団体です

